

## 海域の漁業資源の回復と増強に向けて 「生物生産力向上と低下の定量的解析」



有明海における2000年のノリ養殖の異常な不作や1980年頃からのアサリやタイラギ等この第四回の研究報告書では、大きな社会問題となった有明海の漁業不振の原因究明において、最も直接的に関係があり、かつ最も重要な要因でありながら、研究が殆ど進んでいない漁業実態について取組んだ。すなわち、総論では世界の海洋資源と資源保護の実態、日本の漁業の推移と問題点および沿岸漁業として特にアサリの問題について述べた。日本の漁獲量は世界の漁獲量の伸びとは逆に減少傾向にあり、その要因として漁獲可能量を超えた漁獲、すなわち乱獲が行われてきたことや漁業従業者の高齢化や不適格な水産投資等の社会的要因が挙げられてきた。

また、各論の研究では、有明海を中心にした乱獲の実態解析としての漁獲圧が漁業資源に与える影響のモデル解析、食害の実態把握として博多湾和白干潟、有明海の二枚貝類に対するナルトビエイの食害モデル化とその駆除対策や山口湾アサリに対する食害魚種について述べた。さらに稚魚、稚貝の育成場、すなわち再生産の場の確保について、和白干潟と博多湾でのアサリ浮遊幼生の挙動や着底についてのシミュレーション解析を行った。第三回の報告書に引き続いて、栄養塩管理と基礎生産

にも触れ、諫早湾調整池の生物動態、博多湾における栄養塩管理手法や有明海のノリ漁場の栄養塩類の構造解析と生物動態についても論じた。

要するに、この報告書では漁業不振問題の解明にあたっては、第一に手がけなければならないのは、その直接な原因である漁獲圧の問題や漁業者の社会的要因の解析である。日本の漁業の実態の把握が必要であることを示した。また、個々の解析モデルでは、有明海等における漁獲圧の実態のモデルや食害の実態モデル、あるいは稚魚、稚貝の育成場の検討等の漁業不振の実態の解析を行った。

この報告書の提案が、漁業不振の真の実態解析の啓蒙となり、その本質的な解明に寄与することと願っています。

研究会代表 中西 弘

有明海研究会メンバー

中西 弘 内田 唯史 中嶋 雅孝 藤井 暁彦 天日 美薫 横山 佳裕 道山 晶子 吉次 祥子  
森川 太郎 田中 憲一 後藤 祐哉 本田 裕理 宮原 絵美 百島 亜紀

---

## ●目次

まえがき

第1編 総論

## 第1章 世界の海洋資源と資源保護

- 1. 1 海洋資源管理の基礎知識
- 1. 2 世界の海洋資源の利用状況
- 1. 3 世界の漁業の資源管理の徹底

### 第1章 参考文献

## 第2章 日本の漁業の推移

- 2. 1 世界と日本の漁業生産量と養殖業生産量の推移
- 2. 2 日本の沿岸漁業と沖合漁業の推移
- 2. 3 日本の養殖業の推移

### 第2章 参考文献

## 第3章 日本漁業の問題点とその解決に向けて

- 3. 1 日本の漁業は衰退に歯止めがかからない
- 3. 2 持続性を無視して、自滅する日本漁業
- 3. 3 生物学的許容漁獲量と総漁獲可能量との乖離と科学の軽視
- 3. 4 水産行政の問題点
- 3. 5 日本の水産業改革への提言
- 3. 6 高木委員会提言を受けて

### 第3章 参考文献

## 第4章 沿岸漁業としての特にアサリの問題

4. 1 日本の沿岸漁業におけるアサリの生産量の推移
4. 2 アサリ生産量の減少の理由
4. 3 アサリ生産力回復に向けた取るべき方策
4. 4 瀬戸内海のアサリ生産について
4. 5 有明海の有用二枚貝類に係る検討状況のとりまとめ

## 第4章 参考文献

## 第2編 各論(事例研究)

### 第1章 乱獲の防止

1. 1 乱獲のシミュレーションモデル解析

### 第1章 参考文献

### 第2章 食害の実態の把握とその対策

2. 1 和白干潟におけるアサリ資源の動態と再生産
2. 2 有明海におけるナルトビエイの食害影響とその駆除法の検討
2. 3 山口湾のアサリ資源に対する食害魚種とその量

### 第2章 参考文献

### 第3章 稚魚, 稚貝の育成場の確保

#### 3. 1 博多湾におけるアサリ浮遊幼生の着底挙動

#### 3. 2 博多湾と有明海におけるアサリ浮遊幼生の挙動の比較

### 第3章 参考文献

### 第4章 栄養塩管理と基礎生産量の確保

#### 4. 1 生物動態を考慮したモデルによる諫早湾干拓調整池の水質改善の検討

#### 4. 2 博多湾における栄養塩管理手法の一考察

#### 4. 3 有明海における栄養塩の構造解析と生物動態

### 第4章 参考文献

あとがき

巻末資料

有明研究会の研究成果

(1)論文投稿

(2)学会発表

(3)その他